

「弥栄で生きて生かされる」

誰もが安心して「弥栄で生きてきてよかった」と思える町になるために…

～弥栄流のあたりまえの生活とは… 「弥栄流スローライフ」への再提案をしていきます～

浜田市立安城公民館

1 浜田市立安城公民館の概要

中国山地を背負った浜田市の水と空気の源、弥栄町。中山間地域で過疎と高齢化が急速に進む人口約1500人の町の山間部、安城地区に位置する。平成14年度の開設から今年度で9年目を向え市の建物の一室を公民館として借受け、館長、主事の2名体制で活動を行っている。

開設以来、公民館をサロンとし地域の皆さんが集い、交流し、色々な事を語りあえる場の提供を第一に考え公民館運営推進委員と共に、中～長期的な活動計画を作成し協議をしながら事業の運営と推進を図っている。

2 事業の概要

(1) はじめに

- 平成19年度から「ふるさと弥栄」にこだわり取り組んできて弥栄で生きていく力を身につけることを伝承していく受け皿が少なかったことがわかった。弥栄に今大切なのは、ありのままの「あたり前の今の生活」＝（衣食住に関わるものづくりの文化）を守り、伝えて、残していくこと。このことを具体的な活動を通じて今一度発信していく。
- これまで弥栄の人たちは、時代に応じていろんなことをやれるだけやってきた。でも… 時代にほんろうされた町民は本来やらなければならないことを「古臭い昔のこと」と投げ出してしまった。地域が崩壊してしまいそうな今だから、町民が納得し、実体験から参加できる地域づくりが必要なのではないかという視点を打ち出していく。
- 現在、何処の行政においても地域課題解決策として取り上げられていること（定住化、少子高齢化、産業振興等）は、どれもみな目は外を向いている（外の力を入れることにエネルギーをついやしている）と感じる。現実には弥栄町でも先行きの不安が増すばかりの実態が急速に進んでいる現状がある。そこで、公民館は「我がふるさとに対する誇りと、自慢のできる人づくり」を提案していきたい。弥栄はここに住む人を大切に思い、存在を認め「弥栄でよかった」「ここにいてよかった」「ここに住んでいてよかった」と思える町になってもらいたい。今こそ目を内に向け、地域の声を聞き『地域力の醸成』を図る大切な時期にきている。このことを地域住民と共感しながら進めていく。

●町民ひとりひとりが輝き、活気づいている町ならば、自然と人は集まってくる。
地域課題解決への知恵も備わってくる。住みよい弥栄を目指して公民館ができることはやはり「地域をつくる人づくり」ではないかと考え今後事業を実施していく。

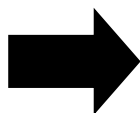
(2) 具体的な取組

① “やさか爺～婆～さん倶楽部” (弥栄地場産クラブ)

公民館活動を通じて自分の持つ知恵や技を掘り起こすことに生きがいと楽しみをみつけた高齢者の皆さんに今度は一歩踏み出し“やさか爺～婆～さん倶楽部” (弥栄地場産クラブ) として活動すること、発信することに取り組んでもらう。弥栄の人の知恵で、弥栄の地域資源を使い、弥栄で生きる力を次世代へ送る大切さ、必要性を提案しながら活動していく。



竹テントづくり



夏の弥栄ふるさと祭りに出店
(みたらし団子、自家製茶、浅漬け)



秋の弥栄産業祭に出店 (みたらし団子、自家製茶、手作り豆腐、わら細工など)



←味噌づくり
豆腐づくり→





②弥栄流 今！勝つ！（コンカツ→婚活）

弥栄の独身男性に目を向け、家庭（家族）を持つことは社会的責任を果たす第一歩であること、老後の幸せ、今の生活に張り合いがもてるよう、あきらめかけている気持ちを振るい立たせることに取り組んでいきたい。

まずは公民館主催事業の強力なスタッフとなり、ボランティア活動で己に自信をつけてもらう。更に社会的責任を自覚するために家庭をつくり、現在すたれつつある「結」の精神で集落を守り、即戦力となり地域を盛りたてていく貴重な人材へと意識改革をしてもらう。公民館は、勇気が出る方法、悩みを相談できる所、励まし合える場を提供しながら、次のステップも設定していく。

後は「実践あるのみ！」これが、弥栄流婚活のはじまりとなる。

3 事業の成果

（1）やさか爺～婆～さん倶楽部（地場産）

今年度は特に「ものづくり」をしながらそれぞれの得意技をいろんな場面で発表できるような場の設定に力を入れ、これからの活動の地盤強化を目指した。

- ・イベントに2回参加した成果として商品が数時間で完売となり一回の売り上げが3万円弱となった。材料を可能な限り弥栄産品にし関わる人を増やした。又テント内をたまり場的に開放した事で地域の方が入れ替わり休み、話をしていった。売上は仕入れ代の支払いや次回材料代を残しみんなで折半していた。
- ・知恵や技が子どもたちの活動に生かされ、5年生の餅米作り体験が卒業式に祝いの紅白餅となり、1，2年生の大豆栽培の農業体験が味噌となって学校へ送られた。素材を活かす発想に驚かされ、学校からも授業で取り組んだことが

成果となり還元できたことにとても感謝された。

- ・保育園との地域交流会で昔の遊び（コマ、カルタ、お手玉）を通して弥栄のお爺ちゃん、お祖母ちゃんとして子どもたちに関わってもらった。

（２）弥栄流 今！勝つ！（コンカツ→婚活）

今年度は事業の成果とまではいかないがこれからこの事業を進めていくのに大切な足固め、動き出すための地盤づくりに力を入れ少しずつだが効果があらわれてきた。

- ・一つの動きとして地域に発信するところまではできなかったが、運営推進委員の皆さんと何度となく話し合い弥栄流の婚活が必要であることの確認と情報の協力を得ることができた。

- ・一人一人にさりげなく接近し、声をかけ、会話するなかでまず第一歩の顔つなぎができた。

4 今後の課題

事業内容や展開を公民館内で抱え込むのではなく「相談なんだけど…」と率直に地域の方に投げかけ、知恵を出し合うことで関わる人が増え、結果につながるということをもっと実践していく。

弥栄流のスローライフは「ものづくりの文化」、弥栄流婚活は「文化継承の受け皿」として現段階で整理し次につなげていきたい。

